

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100118		
法人名	医療法人社団 萩野医院		
事業所名	グループホームおわら		
所在地	富山市八尾町西町2386		
自己評価作成日	平成30年1月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

八尾の旧町で唯一の認知症対応型共同生活介護として萩野医院と医療連携して、看取り介護を含めてサービスを提供しています。入居者が生活していた地域にある事から、近隣住民や家族との交流が日常的にあり、安心して生活されています。また地域の保育所、中高生との交流や、曳山祭り、風の盆や坂の町アートなどの行事に参加して楽しんでおられます。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成30年2月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

経営母体である萩野医院との医療連携が確立されており、何時でも適切な医療が受けられ、利用者、家族共に安心して生活している。地域行事には積極的に参加しており、家族や友人、知人の訪問も頻繁にある。花見など季節ごとの行事を利用者は楽しみにしており、その様子がホールに飾られている。また管理者、職員とも、サービスの向上を図るため、講習会を開いたり、研修など積極的に参加している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

グループホームおわら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに法人と理念を学ぶ勉強会を行い、理念の重要性を認識しています。職員は理念を軸に日々職務に取り組んでいます。毎月のカンファレンスの後に理念を唱和しています。	法人の理念を基に、事業所独自の「目を見て、えがおで、挨拶」を目標に定め、管理者、職員が理念を共有できるよう、勉強会等で唱和している。日常業務においても、ケアサービスが疎かにならぬよう、業務に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧を回してもらい、行事への参加交流をしています。「曳山祭り」「風の盆」では地域の人々と一緒に準備、参加しています。また納涼祭への参加や、保育園児や小中高生の訪問もあり地域交流を大切にしています。	利用者には近隣の人たちが多く、今後の生活においても、地域との関わりが大切であるとの思いで、地域の催事には積極的に参加している。また、事業所で行う行事には近隣の人たちを招くなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中・高生の社会勉強、特に14才の挑戦では1週間の実習で入居者と触れ合い、学ぶ機会を提供する等、地域の人々に理解や支援の方法を発信する機会にしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では第三者評価、家族交流会、実地指導等、研修会、消防訓練、季節毎の行事などの報告を行いご意見やアドバイスを頂きサービス向上に活かしています。	運営推進会議には家族にも参加を呼びかけ、定期的開催されている。事業所からはケアの様子や行事の様態などを報告しており、認知症の人に対する接し方などについて、参加者と意見交換されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に事業所の事情やケアサービスの取り組み実態を伝えながら協力関係を築くように進めています。また運営推進会議でも地域福祉課職員に参加してもらい意見を聞いています。	市の担当者には、事業所の取り組みや行事の様態などを報告している。一方、担当者からは研修会の予定などを聞き取るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束の勉強会を行い職員は内容を正しく理解しています。常に入居者の心身の状態、行動を把握し、安全で安心な暮らしができるようチームで話し合い、介護に取り組んでいます。	身体拘束をしないケアの徹底については、機会あるごとに職員同士で確認している。言葉遣いにおいても、誘導が強制的になっていないか、注意し合っている。ベッドからの転落防止に対し、柵を設けるかどうかは、家族とよく相談を重ねるなど、利用者に寄り添うケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年春季に勉強会を行い職員は内容を正しく理解しています。事業所内での虐待がないよう、チーム全員が気配りをし、介護に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	以前に権利擁護に関する制度の説明を受けています。現在その制度を利用されている入居者はいませんが、利用される時は支援をしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は家族に契約内容を十分に説明しており、納得のうえ契約を締結しております。不安や疑問点は、その都度相談にのっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のケアの様子や行動予定を毎月の通信で家族に報告し、家族アンケートや家族交流会などで意見や要望を把握しています。寄せられた意見や提案は職員で話し合い運営に活かしています。	家族の面会時や家族交流会の時などに意見や要望を聞き、家族へは行事の様様や利用者の生活ぶりを、毎月の通信で伝えるなど、家族との信頼関係を築くよう努めている。本人や家族から出された要望等は運営に反映させるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務中やカンファレンスの時に職員からの意見や提案を聞き、必要に応じてカンファレンスで話し合ったり、代表者に報告して意見を反映しています。	管理者は日常業務の中で、職員が話し易い環境をつくり、コミュニケーションを図るよう努めている。職員から出された案件は職員全員で話し合い、必要があれば業務に活かすよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の実績、勤務状況を把握しており、代表者に報告しています。それらが給与や賞与、就業環境の整備に反映されます。これらの事でやりがいを持って働ける様努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者からの報告を受け職員の能力に合った研修が受けられる様配慮しています。また職員の質や能力向上のため、年間の研修計画をたてており、毎月研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修などに参加する様に勧めており、同業者と交流しサービスに関する情報交換する機会があります。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談したり、前の介護支援専門員から情報を得て本人の要望を把握し安心して生活ができる様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に家族と面談し、家族の不安や要望を聞いています。その要望に対して、できるサービスを説明し、安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を得ると共に、入居後一週間、全スタッフから日常生活の様子などを情報収集し、生活する上での問題点や必要な支援を話し合い見極めしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をする上で助け合える様に配慮しており、洗濯物を畳んで頂いたり、季節の食べ物を作る時に相談して作って頂いたりしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるためには、本人の思いを一番理解しておられる家族の力が必要であることをお話し、本人の支援の方法について御家族と共に考えるよう努めている。また、スタッフではできない部分の協力をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	入居者は、旧町や八尾町に縁がある方が多く、友人知人が近所に住んでおられる為、自由に面会電話連絡をして頂いています。また休日には自宅や買い物に出掛けられるよう支援している。	利用者には近隣の人が多く、友人、知人の面会を利用者は楽しみにしている。家族の協力を得て、お墓参りや自宅へ帰るなど、馴染みの場所や人との関係が途切れないうよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者と共通の話題がある方と同じテーブルに座って頂く様配慮しており、また新たな人間関係が築ける様、スタッフが間に入り話が弾む様支援しています。人間関係や性格、相性、認知機能を考慮して柔軟に対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には退居後も様々な相談に応じる事を伝えています。その為にも全ての記録は5年間保存し、家族の希望に応じていつでも開示できるようにしています。又、逝去時にはお通夜、葬儀に参列し家族の支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人、家族におわらでの生活についての希望や意向を確認しています。また、日々の支援の中で入居者の会話や行動から思いを推察し、カンファレンスや申し送り話し合いその人らしい生活が送れる様検討を重ねています。	意思表示が困難になってきた利用者には、今までの生活や日常を送る中で表情や行動を見ながら、意向や思いを汲み取っている。利用者に笑顔で過ごしてもらうよう、コミュニケーションを図りながら、時間をかけて理解するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より本人、家族、前事業者、ケアマネより情報を入手し、入居後も以前の生活習慣を維持できるように支援しています。また、日々の支援の中で得られた情報を全スタッフが共有し、本人らしい生活ができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、支援に入る前に申し送り、記録物を読むことによりその日の状態や様子を把握しています。又、心身の状態に変化がある時はその都度、その場で話し合って意見を出し合いその人にふさわしい支援を行うよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援の中で状態の変化や課題、問題を見つけ、カンファレンスにて意見交換を行っています。また、ケアプラン作成時には本人、家族の希望や思いを確認しケアプランに活かすと共に支援実施前には本人、家族に説明を行い同意を得るよう努めています。	利用者の本音にそった生活が送れているか、男性職員、女性職員の見方の相違もあり、それぞれの意見を検討しながら介護計画を作成している。状態変化や気づきがあればその都度見直しを図り、現状に即した介護計画に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援の実施や結果、入居者の状態変化や新たな支援のアイデアは毎日の記録に落とし、申し送りやカンファレンス時に話し合っ共有しています。また、それらの意見、情報はケアプランの作成時に活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人母体の萩野医院による、訪問診療の他理学療法士による訪問リハビリも行っています。また、全スタッフに毎月、施設内研修に参加して新たな知識やスキルを得る機会が設けられており、それらを日々の支援に活かせるよう努力しています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週、近隣の方がボランティアで来られる他、地区の祭りや行事に参加したり、保育所、14歳の挑戦、高校生、サマーボランティア、各種団体の受け入れも積極的に行い入居者の生活の向上に努めています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医の確認をしますがほぼ全員の方が萩野医院を希望されます。体調不良時にはすぐに萩野医院へ連絡し、指示を受けています。専門的な治療が必要な時は萩野医院より協力病院、専門科を紹介して対応しています。	母体法人の萩野医院との連携が密に図られており、いつでも適切な医療を受けられるよう支援している。本人、家族にとって安心できる体制が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎日のバイタル測定や食事、排泄などの情報や気付いたことを看護師に報告しています。萩野医院と連携して適切な治療や看護が受けられる体制を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院する時には情報提供書を作成し入院先に情報を提供しています。入院に際しては地域医療連携室と連携を取り管理者かケアマネが医療機関の退所時カンファレンスに参加して情報提供及び助言を受ける様にしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り期になった時の希望を家族に確認しており、実際に終末期に入った時は医師より家族へ本人の状態及び看取りの説明を行い、再度家族に希望を確認し当施設で行える支援を説明しています。それらの情報を基にケアプランを作成し支援しています。	終末期の段階に於いては、医師からの説明と共に事業所としての取り組みを家族に説明し、方針を共有している。「最後まで穏やかに過ごしてもらいたい」との終末期ケアに対する職員の意識も高く、医療との連携を図りながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフがAEDを使用した救命講習に参加し必要な知識を身に付けています。また勉強会で事故発生時の処置と対応手順について徹底できる様努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が年2回の防火訓練に参加しています。避難訓練などの担当をローテーションして、全員が対応できるようにしています。訓練は運営推進会議でも報告すると共に、近隣の方にも協力頂いています。	避難訓練の実施の際には、近隣住民へ「避難訓練への参加のお知らせ」を配布し、参加協力を得て訓練を行っている。冬季に於いては、非常口通路の確保のために除雪を行い、常に非常時に備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人の誇り、プライバシーの配慮に心を配り、訴えの多い人に対するケア、帰宅願望の訴えに対するケアなど本人への思いやり、その人らしく暮らせるよう、言葉をかけ対応しています。	研修や勉強会などで学んだり、事例のDVDを使い、職員自らの言葉や行動を見直している。利用者の要望や思いを受け止め、拒否の言葉やプライドを損ねないよう対応に努め、利用者を理解するよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者には、飲みたいものを選んでもらい、本人の希望にこたえています。自分で服装を選んでもらったり、常に声掛けを心掛け、納得いくよう希望に応じた対応に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせ、昼寝をしたり、本を読んだり、テレビを観たり、俳句を作ったり、散歩をしたりする等、一日をその人らしくすごせるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好みの衣類を選び、着用している方もいます。理容師が訪問して来て、本人希望の髪型を伝えています。「わくわくオシャレデー」と名付けて職員が美容講習会を開き、お化粧を楽しんでいます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食事の好み、例えばそばが嫌いな人はうどんに変えたり、食事介助の人には一口一口時間をかけて味わって頂いています。咀嚼、嚥下力の低下を防ぐための研修も受けています。	食事時間は、利用者一人ひとりに合わせて対応し、席順にも気を配り、気分良く美味しく食べていただくよう図っている。また桜餅やおはぎなど、利用者と一緒に季節を味わうおやつ作りも楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は業者から配達されます。栄養料と業者で硬さ量など栄養のバランスを考えて配食されます、好みに応じ飲み物を選んでもらい水分摂取の確保に努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合わせた介助方法で口腔ケアを行い、自力でできる人には行ってもらいます、義歯の方は洗浄剤を使用し清潔を保っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄したいとの本人の思いを大切に、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣などを把握し、気持ち良く排泄ができるよう目線を合わせ声掛けし、本人の了解を得て介助しています。	トイレでの排泄を勧め、排泄パターンを把握しながら早めの誘導を行っている。介助の必要な利用者には、一つひとつの動作ごとに声をかけ、失敗のない排泄支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が心身に与える影響を全職員が理解しています。起床時の牛乳摂取、腹部マッサージ、ラジオ体操など自力排便できるよう支援しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めています、利用者の希望、気分に合わせて入浴の変更を自由に行っています。入浴を拒む方には日ごろから関わり方、声掛けなど、気分良く入浴できる様工夫、配慮をしています。	浴槽内からの出入り、立ち上がりなど安全面に気を配りながら入浴時間を見守っている。体調や身体の状態に応じて、シャワー浴や清拭などで対応することもあり、常に身体の清潔を図っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝の時間は決めていません。本人のその日の気分や体調に合わせています。個々に合わせて安心して眠れる様支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は利用者の既往歴薬剤情報により理解しています。薬が処方された場合、常に体調や症状を観察し管理者に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	心得のある方は四季の花を生けて下さったり、洗濯物たたみ、新聞たたみなど役割を持てるよう支援しています。活動では雑誌を読む、塗り絵、編み物等張り合いのある暮らしへと支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から玄関は施錠せず、日常的に自由に散歩に出かけられるようにしています。買い物や町内行事への参加など地域交流、社会参加に努めています。花見やアート作品展にも出掛け、外出を支援しています。	利用者には、地域行事への参加や季節の花見など計画を立てながらお連れしている。また一人ひとりの希望に応じて買い物や、時には馴染みの寿司屋にお連れするなど、家族に協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いにより、お金の所持を希望する利用者には財布を持って頂いています。利用者が希望される物は家族に相談し、満足を得られるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば利用者はいつでも事業所の電話を使って家族と連絡をとることができます。携帯電話で自由に電話されている方もおられます。利用者の要望にて手紙をポストに入れる支援もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は町中にあり、一日の大半を過ごされるリビングは大きな障子戸から差し込む明るい日差しに包まれています。季節ごとの花や壁飾りなどで四季を味わって頂き、廊下突当りからは山や川が眺められます。室温も入居者に合わせ、暮らし易い様に支援しています。	玄関を入ると、利用者の笑顔あふれる行事写真や季節の花が、訪問者を暖かく迎えてくれる。落ち着いた雰囲気のあるリビングの大きな障子戸を開ければ、雪景色の街並みが見られ、キッチンからの音や利用者の何気ない会話など、馴染んだ居心地よさが利用者には、「ここが一番いいところ」と言わせている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの個性を把握し、その時々体調や思いをくみ取って、席替え、気の合う方同士並んで頂いたり、独り静かに出来る空間を作ったりする等の工夫をしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所での生活も、これまでの生活の延長と考え可能な限り愛用されていた身の回りの品物をおいて頂き、本人が望まれる安心して生活できる空間作りをして頂いています。	使い慣れたチェストの上にお気に入りの小物や家族写真を置き、利用者が安心できる空間作りを支援している。また職員が描いた利用者本人の肖像画を飾るなど、家族と共に心安らぐ居室作りを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーであり、手摺が各所に設置されています。居室の個人名、トイレ等は目に留まりやすいよう手書きにし目線に合わせた高さに設置しています。トイレ便器側にも手摺を設置しました。			

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームおわら

作成日 平成 30年 3月 21日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	利用者様の認知・身体機能の重度化により、外出の機会が減っており、生活に変化が少なくなっている。	重度化しても、住み慣れた地域での活気ある生活が送れる様、外出や地域交流の機会を多く持つ。	職員間の連携を密にして役割分担、時間調整して、縁側に出て近隣住民の方々と交流する機会を増やす。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

グループホームおわら